



■Beyond—その先に—

1月1日に、石川県能登地方で教員をしている知人から年賀状が届きました。そこには被災地の数枚の写真とともに、次のような言葉がありました。「2024年1月1日。忘れられない日になりました。その数日後、被災した校舎の窓から見えた虹が私に元気をくれました。新しい1年が始まります。たぶん、当たり前が始まると思っていますが、その「当たり前」は、そうでないこともある…を味わった今は、私は私だからと、今まで通りにいこう！と開き直って生きていきます。」

2025年を迎えました。1月1日の午後4時10分は、あれから丸1年が経過した時刻でした。石川県輪島市で行われた追悼式の様子や被災地の現状を見るにつけ、胸にこみあげてくるものがあります。まだまだ様々な支援が必要であることを痛感するとともに、今だからできることもあるはずとの思いを強くしました。

皆さんはこの年末年始にどんなことを思い、あるいは考えながら過ごしましたか？みえないものがみえた—そんな瞬間はありましたか？昨年度から皆さんにお話しさせていただいている合言葉『向き合う。その先に…』そして副題の英文『Face it. Beyond that…』最近、この英文に使用している『Beyond』という英単語をよく耳にします。大手都市銀行、スポーツ専門のビデオ・オン・デマンド・サービス会社、車用品会社のCMなどでも使われています。また、昨年公開のディズニー映画『モアナと伝説の海2』では「越えてゆこう、どんな運命が待っていても——」のテーマに合わせた劇中歌（「ビヨンド～越えてゆこう～」）にもなっています。そこには、コロナ禍による生活様式の変化や閉塞感漂う空気の中、現状を打破して少しずつ前に進んで行こうという社会の流れがあるのかもしれない。

大リーグのマリナーズ、ヤンキースなどで活躍し、2019年3月21日に現役引退を発表したイチローさんは、その引退会見で「生き様でファンの方に伝わっていたらうれしいことは？」という質問に対して次のように答えています。「生き様というのは僕にはよく分からないですけど。生き方という風に考えれば、人より頑張るなんて事はとてもできないんですよ。あくまでも秤は**自分の中にある。それで自分なりに、その秤を使いながら、自分の限界を見ながら、ちょっと超えていく。**ということを繰り返していく。そうするといつの日かこんな自分になっているんだっていう状態になって。だから**少しずつの積み重ねが、それでしか自分を超えていけないと思ってるんですよ。**一気に高みにいこうとすると、今の自分の状態とギャップがありすぎて、それを続けられないと僕は考えているので。地道に進むしかない。進むだけではないですね、後退もしながら。ある時は後退しかしない時期もあると思うので。でも自分がやると決めたことを信じてやっていく。でも、それは正解とは限らないですよ。間違ったことを続けてしまっていることもあるんですけども。でもそうやって遠回りをするだけで、本当の自分に出会えないというか。そんな気がしているので…（後略）」

新年を迎えた今、改めて今の自分の中にある秤を使いながら自分の限界を確認する作業から始めてみませんか？その限界をちょっと超えていこうと繰り返すなかで、自分の知らなかった“本当の自分”に出会えるのかもしれない。

『Beyond』—「その先に」「越えてゆこう（超えてゆこう）」というのは口で言うほど簡単なことではありません。しかし、簡単ではないからこそキャッチコピーとして士気を高めているともいえます。仲間とともに「その先に」「越えてゆく（超えてゆく）」そんな考え方もいいですね。

3学期は、各学年の皆さんにとって1年間を締めくくる大切な時期です。3年生の皆さんは残り少ない高校生活です。高校生活の集大成となる3学期の一日一日を大切にして過ごしてください。